

報道関係者 各位

2022年2月1日

公開講演会「イメージの脈動にふれる」 2022年3月25日(金)オーバルホール(梅田)にて開催！

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、講演会を変更・中止する場合がございます。予めご了承ください。

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、公開講演会「イメージの脈動にふれる」を2022年3月25日(金)にオーバルホール(大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社ビルB1)にて開催する運びとなりました。

【趣旨説明】

「神話は人間のなかにおいて、人間自身が知らぬまに考え出される」。文化人類学の巨人、レヴィ＝ストロースはそう語りました。

神話に限らず、わたしたち人間に内在するイメージく心象、心像、死後の世界、夢、自然界がもたらす神秘、超越的な存在など>は、人のはからいや制御を超えて生まれ、変化し、融通無碍に世界を形づくりします。それはさらに、人の所作を通して活性化され、時に廃れ、人と人のつながりを介して時空を超えて脈打ち、様々な媒体を通して顕現し増殖していきます。

本講演会では、チベットの視覚理論と、エチオピアの音楽、中国・敦煌の石窟壁画の事例を手がかりに、さまざまなイメージが生成・増殖していく様相をひも解き、人間の制御を超えたくイメージの主体性>を前提とした知や学問のありかたを考えます。



みんぱく 公開講演会

イメージの脈動にふれる

2022年3月25日(金)
18:30~21:00 (17:30開場)
場 所：オーバルホール
大阪府吹田市梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社ビルB1

参加費：無料
定 員：180名 (要事前申込み/先着順)
手話通訳あり

※本講演会が会場のため、WEBライブ中継(要事前申込み)でもご参加いただけます。
※新型コロナウイルス感染症の状況により、講演会を変更・中止する場合がございます。ご了承ください。

講師
「眼とイメージ」
中沢 新一 (国文学・人類学)

講師
「織と金 - エチオピアの楽譜が奏でる主と形のイメージ世界 -」
川瀬 慈 (国立民族学博物館・聴覚)

講師
「色と光がつくりだす敦煌莫高窟のイメージ世界」
末森 薫 (国立民族学博物館・美術)

司会
中沢新一×川瀬慈×末森薫
総合司会：平野 智佳子 (国立民族学博物館・聴覚)

主催  国立民族学博物館  毎日新聞

【基調講演】眼とイメージ

中沢 新一(思想家・人類学者)

【報告1】蠟と金—エチオピアの楽師が奏でる生と死のイメージ世界—

川瀬 慈(国立民族学博物館・准教授)

【報告2】色と光がつくりだす敦煌莫高窟のイメージ世界

末森 薫(国立民族学博物館・助教)

【パネルディスカッション】

【パネリスト】

中沢 新一 × 川瀬 慈 × 末森 薫

【総合司会】

平野 智佳子(国立民族学博物館・助教)

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

今年度は、2021年11月12日(金)に日経ホール(東京)にて「流動化する家族のかたち——少子高齢社会を文化人類学から考える」を実施しました。

【プログラム】

17:30	開 場	
18:30 - 18:35	開 会	鯨岡 秀紀(毎日新聞大阪本社・編集局長)
18:35 - 18:40	挨拶	吉田 憲司(国立民族学博物館・館長)
18:40 - 19:30	【基調講演】	「眼とイメージ」 中沢 新一(思想家・人類学者)
19:30 - 19:45	【報告1】	「蠟と金—エチオピアの楽師が奏でる生と死のイメージ世界—」 川瀬 慈(国立民族学博物館・准教授)
19:45 - 20:00	【報告2】	「色と光がつくりだす敦煌莫高窟のイメージ世界」 末森 薫(国立民族学博物館・助教)
20:00 - 20:15	休 憩	
20:15 - 21:00	【ディスカッション】	中沢 新一 × 川瀬 慈 × 末森 薫
21:00	終 了	

【登壇者紹介】

**中沢 新一(思想家・人類学者)**

1950年、山梨県生まれ。京都大学こころの未来研究センター特任教授、千葉工業大学日本文化再生研究センター所長。東京大学大学院人文科学研究科博士課程満期退学。インド・ネパールでチベット仏教を学び、帰国後、人類の思考全域を視野にいれた研究分野(精神の考古学)を構想・開拓する。著書に『チベットのモーツァルト』『森のバロック』『アースダイバー』『カイエ・ソバージュ』シリーズ、『熊楠の星の時間』ほか多数。近著に『レンマ学』、『アースダイバー 神社編』がある。

**川瀬 慈(国立民族学博物館・准教授)**

専門は映像人類学、アフリカ地域研究。人類学、シネマ、アート、文学の実践の交差点から映像、音、詩を用いた話法を探究。著書に『ストリートの精霊たち』(2018年、世界思想社、第6回鉄犬ヘテロトピア文学賞)、『エチオピア高原の吟遊詩人うたに生きる者たち』(2020年、音楽之友社、第43回サントリー学芸賞)等。

**末森 薫(国立民族学博物館・助教)**

博物館における資料保存・管理の実証的研究に携わる。また、中国甘肅省にある仏教石窟、エジプトやバーレーンの考古遺跡等をフィールドとして、美術史・考古学、文化財科学の視点より研究を進めている。著書に『敦煌莫高窟と千仏図ー規則性がつくる宗教空間』(2020年、法蔵館)がある。

【総合司会】

**平野 智佳子(国立民族学博物館・助教)**

文化人類学を専門として、オーストラリアの中央砂漠を中心としたフィールドワークに基づく研究に取り組む。主な研究内容は、アボリジニの飲酒。主要論文として「分配行為にみるアナングのやり方:オーストラリア中央砂漠アボリジニのキャンパス販売と酒の購入資金の獲得の分析から」(2021年、『文化人類学』86巻2号)。

【開催概要】

講演名	公開講演会「イメージの脈動にふれる」
日時	2022年3月25日(金) 18:30～21:00(開場17:30)
会場	オーバルホール(大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社ビルB1)
定員	180名(要事前申込み/先着順/無料) ※手話通訳あり
ライブ中継	本講演は会場のほか、WEBライブ中継(要事前申込み/定員なし/無料)でも参加いただけます。
主催	国立民族学博物館、毎日新聞社

【申込み方法】

申込方法

会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

<https://www.minpaku.ac.jp/>

2022年2月14日(月)受付開始予定

問合せ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 研究協力課
TEL:06-6878-8209 Mail: koenkai@minpaku.ac.jp

[お問合せ] 国立民族学博物館 総務課 広報・IR係
TEL:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイトwww.minpaku.ac.jp/press